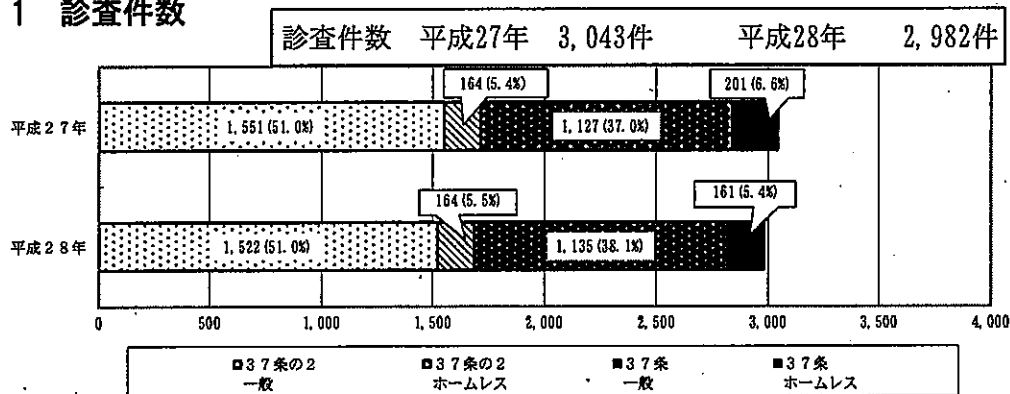


1 診査件数



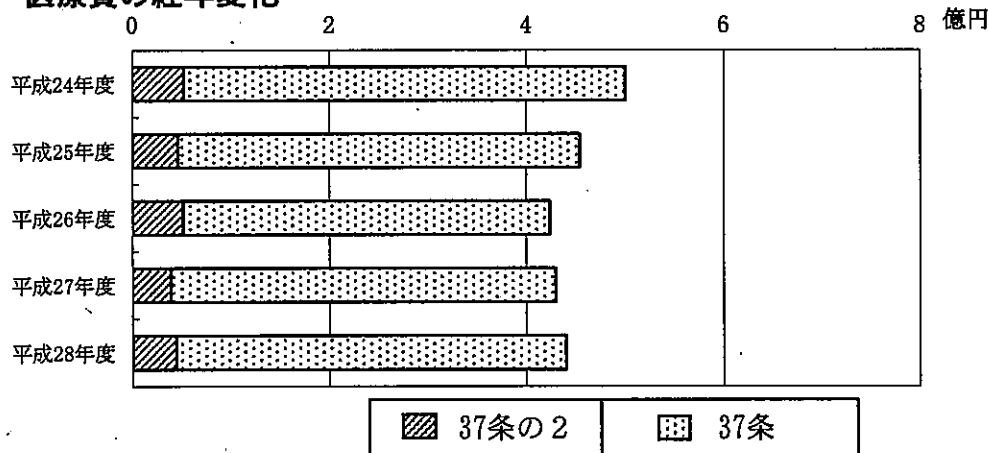
- 平成27年から28年にかけて、全体として診査件数は減少し、一般の診査では、37条の割合は増加し、37条の2の割合は変わらなかった。一方、ホームレスの診査件数については、37条の割合は減少し、37条の2の割合はわずかに増加していた。

2 診査結果

			申請件数 (診査件数- 保留数)	合格	合格率	不合格	不合格率
一般	37条の2	平成27年	1,534	1,517	98.9%	17	1.1%
		平成28年	1,511	1,497	99.1%	14	0.9%
	37条	平成27年	1,127	1,109	98.4%	18	1.6%
		平成28年	1,134	1,126	99.3%	8	0.7%
ホームレス、 あいりん地域居 住者	37条の2	平成27年	162	152	93.8%	10	6.2%
		平成28年	160	156	97.5%	4	2.5%
	37条	平成27年	200	195	97.5%	5	2.5%
		平成28年	161	160	99.4%	1	0.6%

- 診査合格割合は、平成27年から28年にかけて37条・37条の2ともに、一般・ホームレスいずれも増加していた。

3 医療費の経年変化



- 医療費は、平成24年度から平成26年度までは減少していたが、平成26年度以降は増加傾向であった。平成28年度は27年度と比べ37条・37条の2ともに増加し、合計では約1050万円増加したが、平成24年度と比べると6千万円以上減少していた。

	37条の2	37条	合計
平成24年度	51,963,933	448,242,926	500,206,859
平成25年度	46,361,451	407,964,666	454,326,117
平成26年度	51,294,848	372,452,425	423,747,273
平成27年度	39,124,356	390,567,902	429,692,258
平成28年度	44,391,556	395,811,128	440,202,684

※医療費は年度表記。(3月診療分～2月診療分)

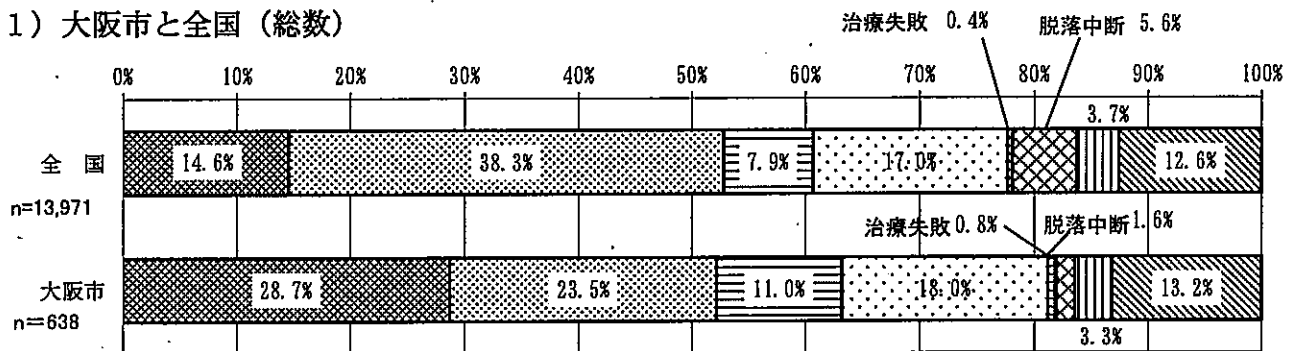
(単位：円)

1 治療成績（平成27年新登録肺結核患者）

※結核発生動向システムより

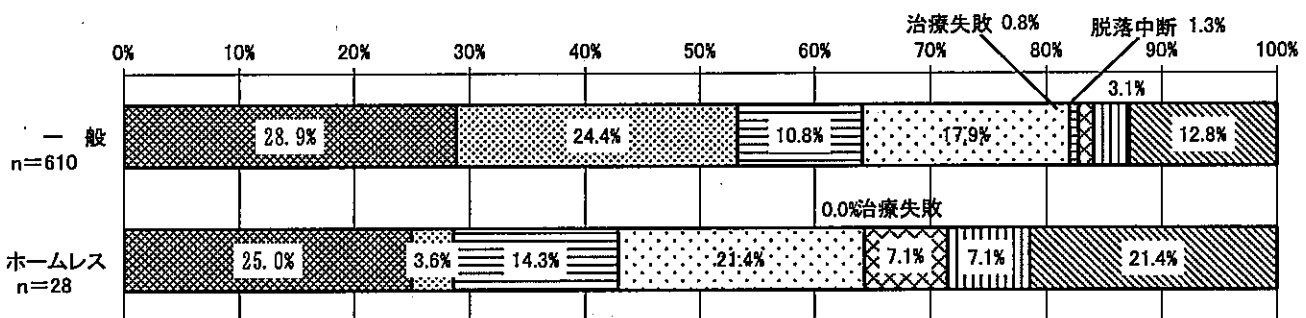
■治癒 ■治療完了 ■12か月を越える治療 ■死亡 ■治療失敗 ■脱落中断 ■転出 ■判定不能

(1) 大阪市と全国（総数）



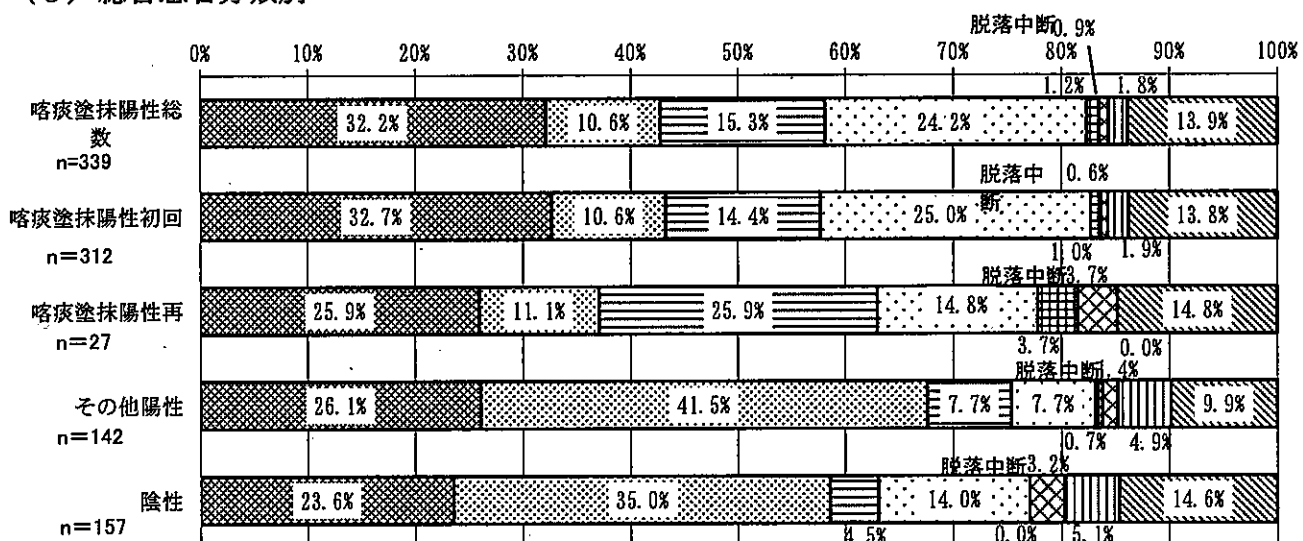
○ 治療成功割合（治癒と治療完了の和）は、大阪市52.2%であり、全国52.9%よりわずかに低かった。治療失敗・脱落中断割合は、大阪市2.4%であり、全国6.0%より低かった。

(2) 一般・ホームレス（総数）



○ 治療成功割合（治癒と治療完了の和）は、一般53.3%、ホームレス28.6%であり、一般の方が高かった。一方、治療失敗・脱落中断割合は、一般2.1%、ホームレス7.1%であり、ホームレスの方が高かった。

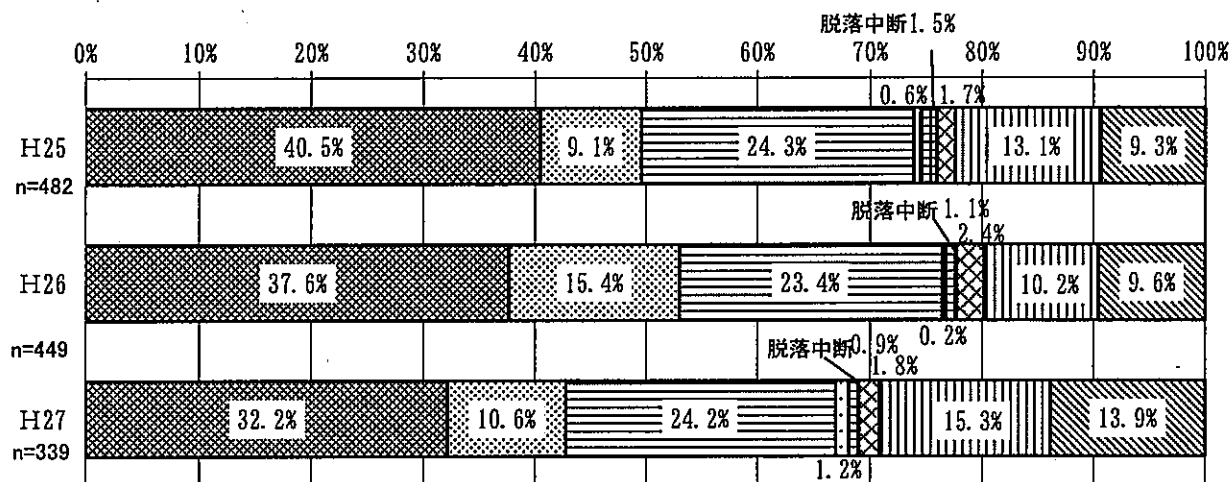
(3) 総合患者分類別



○ 脱落中断割合は、喀痰塗抹陽性では0.9%と極めて少なかった。最も高いのは陰性での3.2%であり、3.0%を上回っていた。次いでその他陽性が高く、1.4%であった。

■治癒 ■治療完了 ■死亡 ■治療失敗 ■脱落中断 ■転出 ■12か月を越える治療 ■判定不能

(4) 喀痰塗抹陽性肺結核患者の治療成績の推移

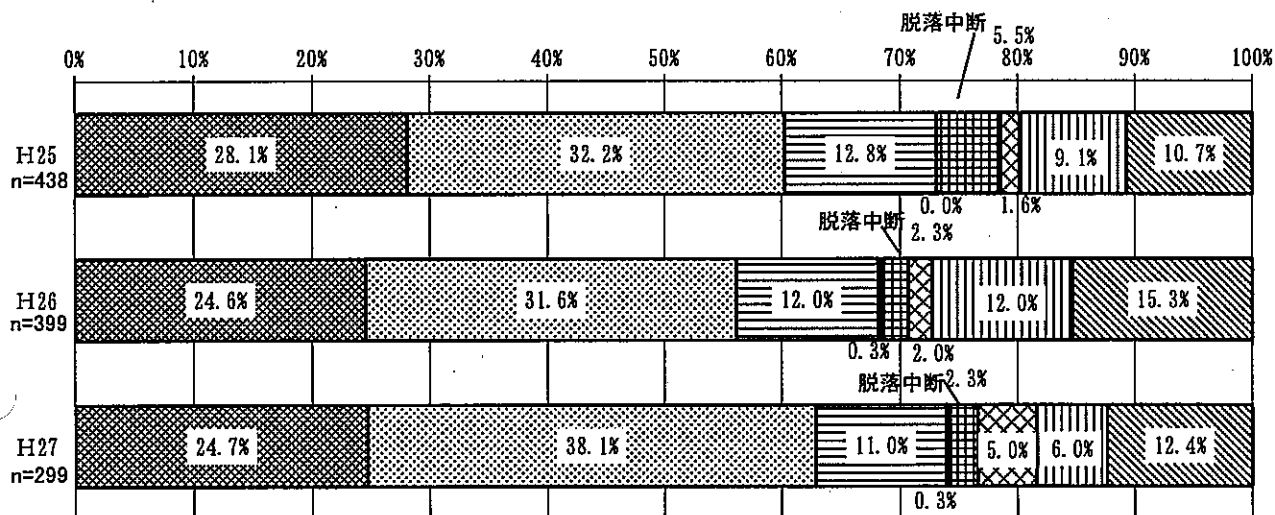


○ 治療成功割合(治癒と治療完了の和)は、平成26年53.0%から、平成27年42.8%と低下していた。

死亡割合は平成25年24.3%から平成27年24.2%とわずかに減少していた。

また、脱落中断割合は平成26年1.1%から平成27年0.9%へと減少した。

(5) 喀痰塗抹陰性肺結核患者の治療成績の推移



○ 治療成功割合(治癒と治療完了の和)は、平成26年56.2%から平成27年62.8%へと増加した。

また、死亡割合も平成26年12.0%から平成27年11.0%へと減少した。

脱落中断割合は平成27年2.3%と平成26年と変化なく、3.0%以下であった。

2 コホート検討会

コホート検討会は、結核治療におけるコホート分析から中断・治療失敗の原因や患者支援のあり方を検討し、結核治療の向上を図ることを目的に実施している。全肺結核患者を対象に、検討内容を医療機関に還元・地域連携の強化を図ることを目的に地域医師会医師が参画している。

平成27年度は、各区保健福祉センター（西成区を除く）は各3回、保健所・あいりん特区、西成区保健福祉センターは各6回、計81回実施した。

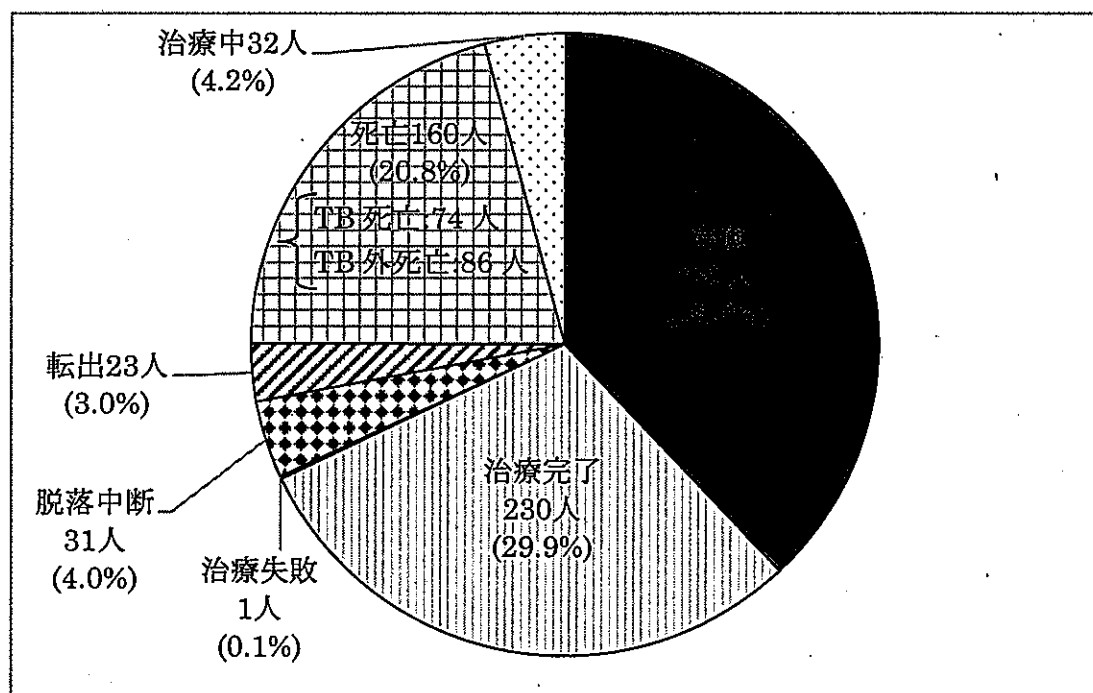
（1）平成27年新登録肺結核患者の治療成績（平成28年12月末現在）

ア 新登録肺結核患者

※ 治療成功：治癒＋治療完了

○治療成績

平成27年新登録肺結核患者774人中、転症削除5人を除く769人について検討した。

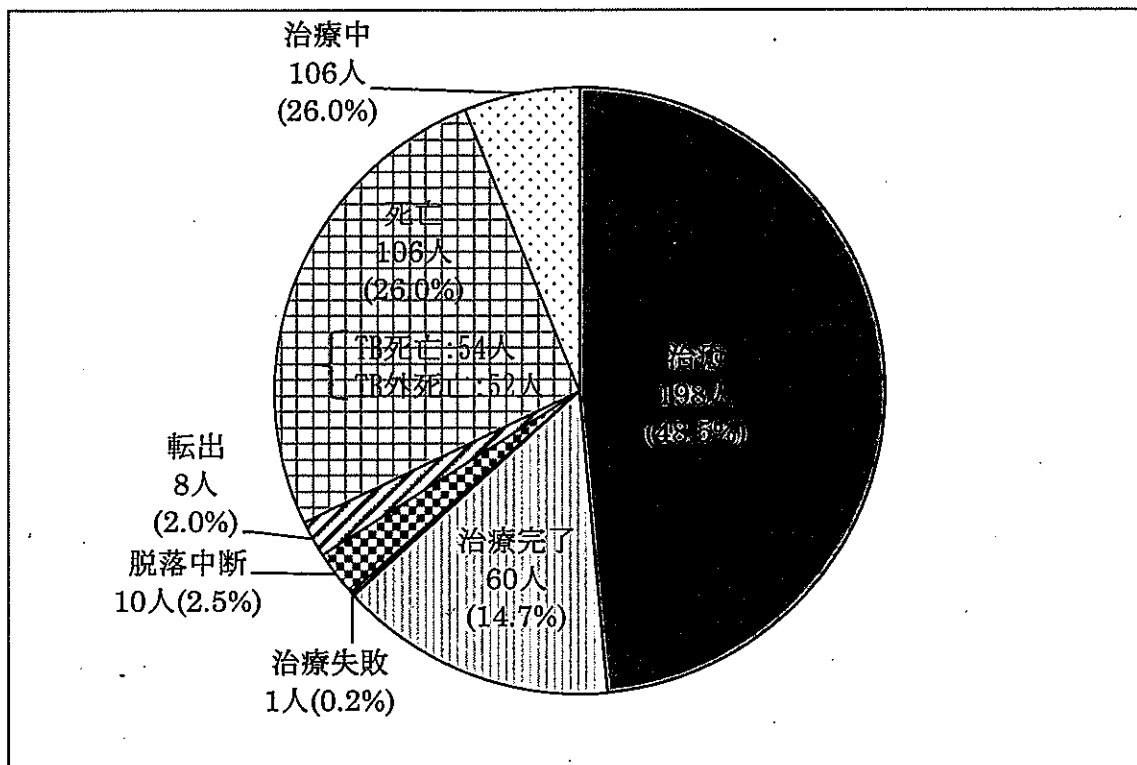


コホート分析による治療成功は522人[治癒292人、治療完了230人]（67.9%）、治療失敗1人（0.1%）、脱落中断31人（4.0%）、死亡は160人[結核死亡74人、結核外死亡86人]（20.8%）であった。転出・死亡・治療中215人[転出23人・死亡160人・治療中32人]を除くと、治療成功割合は94.2%、治療失敗・脱落中断割合は5.8%であった。

イ。喀痰塗抹陽性肺結核患者

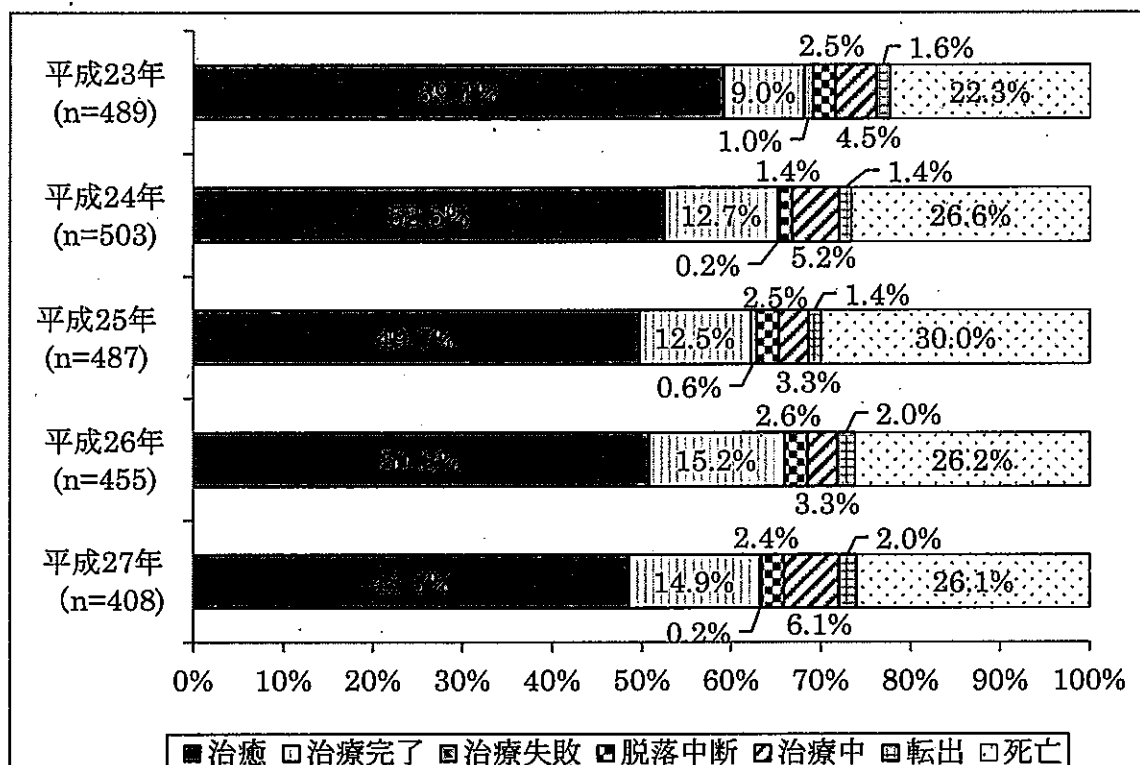
○治療成績

平成 27 年新登録喀痰塗抹陽性肺結核患者 410 人中、転症削除 2 人を除く 408 人について検討した。



コホート分析による治療成功は 258 人 [治癒 198 人、治療完了 60 人] (63.2%)、治療失敗 1 人 (0.2%)、脱落中断 10 人 (2.5%)、死亡は 106 人 [結核死亡 54 人、結核外死亡 52 人] (26.0%) であった。転出・死亡・治療中 139 人 [転出 8 人・死亡 106 人・治療中 25 人] を除くと、治療成功割合は 95.9%、治療失敗・脱落中断割合は 4.1% であった。

○治療成績の推移



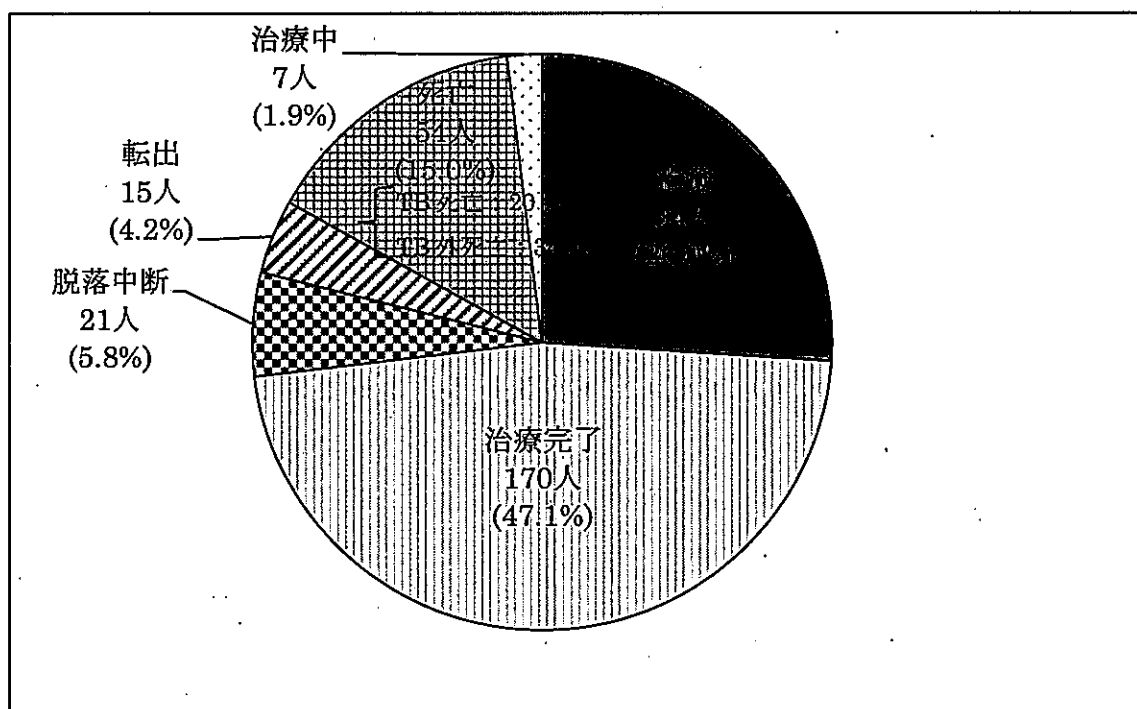
平成23年から平成27年まで5年間の治療成績の推移について、治癒は平成23年以降、50%前後で推移しており、治療完了は、平成27年は14.9%と平成26年からほぼ横ばいとなっていた。死亡は平成25年までは年々増加傾向でしたが、平成27年は平成26年と同様26%台で推移していた。

脱落中断は、2%台で推移しており、平成27年は平成26年に引き続き、2%台で推移していました。なお、平成27年も失敗中断率2.6%と平成23年からと同様、「結核に関する特定感染症予防指針」に示されている「治療失敗・脱落中断率5%以下にする」という目標は達成できていた。

ウ。喀痰塗抹陰性肺結核患者

○治療成績

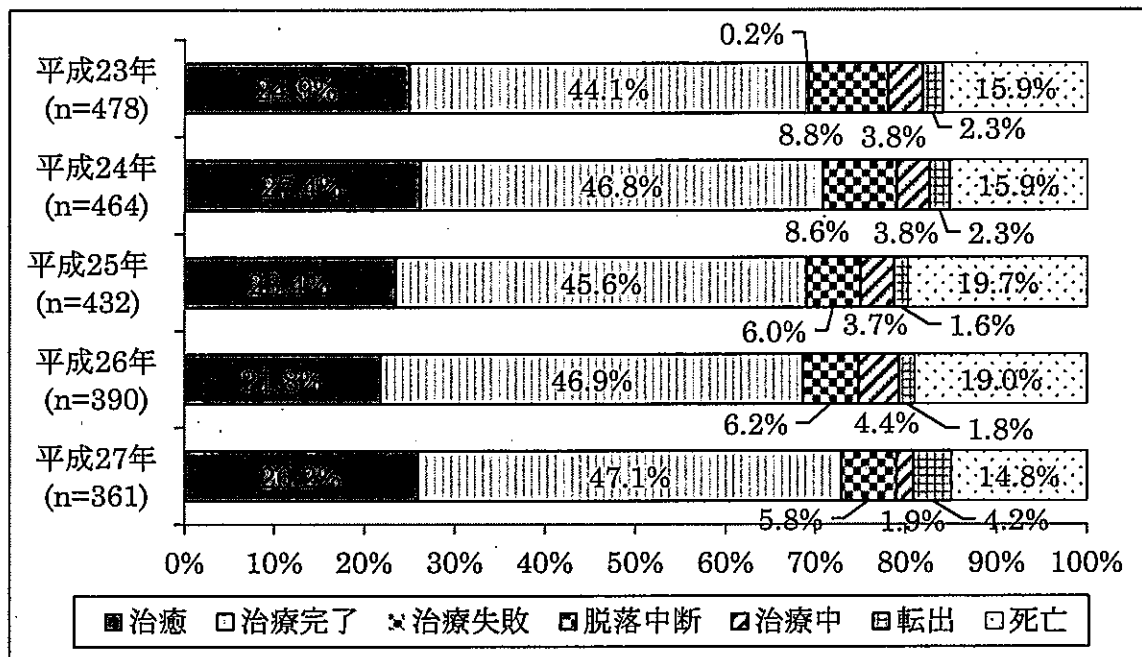
平成27年新登録喀痰塗抹陰性肺結核患者364人中、転症削除3人を除く361人について検討した。



コホート分析による治療成功は264人[治癒94人、治療完了170人] (73.1%)、脱落中断21人 (5.8%)、死亡は54人[結核死亡20人、結核外死亡34人] (15.0%)であった。

転出・死亡・治療中76人[転出15人、死亡54人・治療中7人]を除くと、治療成功割合は92.6%、脱落中断割合は7.4%であった。

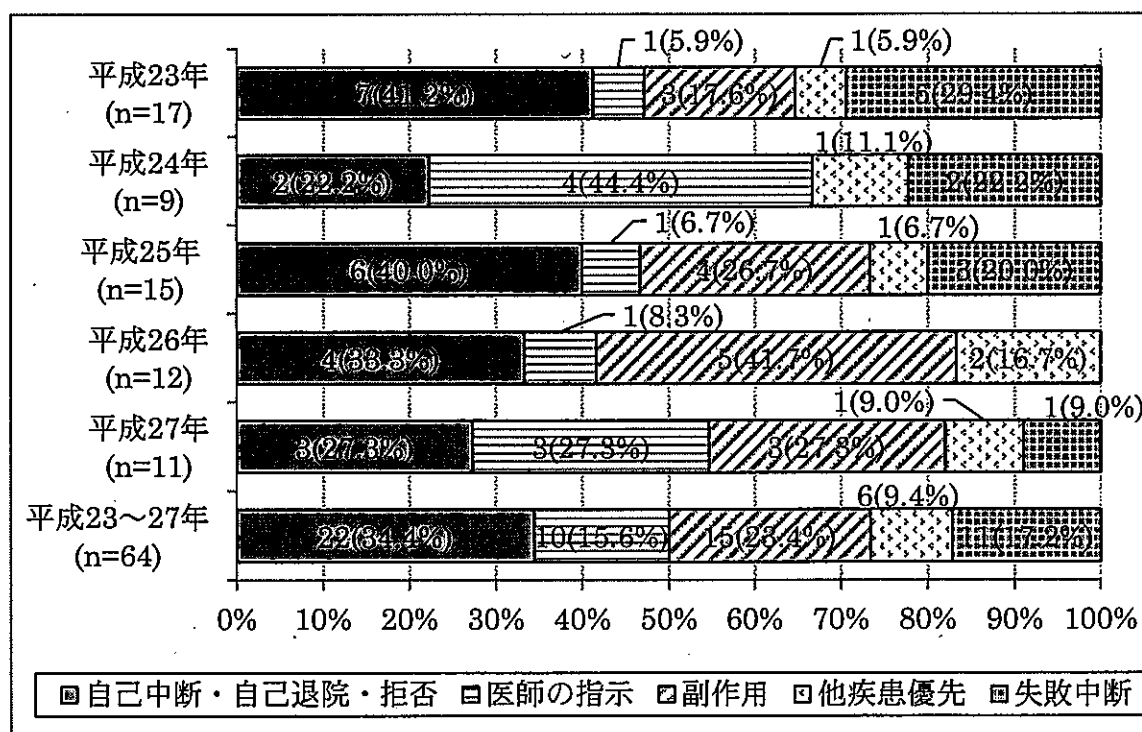
○治療成績の推移



コホート分析による治療成功割合は、平成 23 年から平成 27 年にかけて 70%前後で推移していた。治療失敗は平成 24 年からと同様 0 人、脱落中断は 5.8%と初めて 6%台を切った。死亡は平成 26 年から 4.2%減少し、14.8%だった。

(2) 治療失敗・脱落中断の内訳

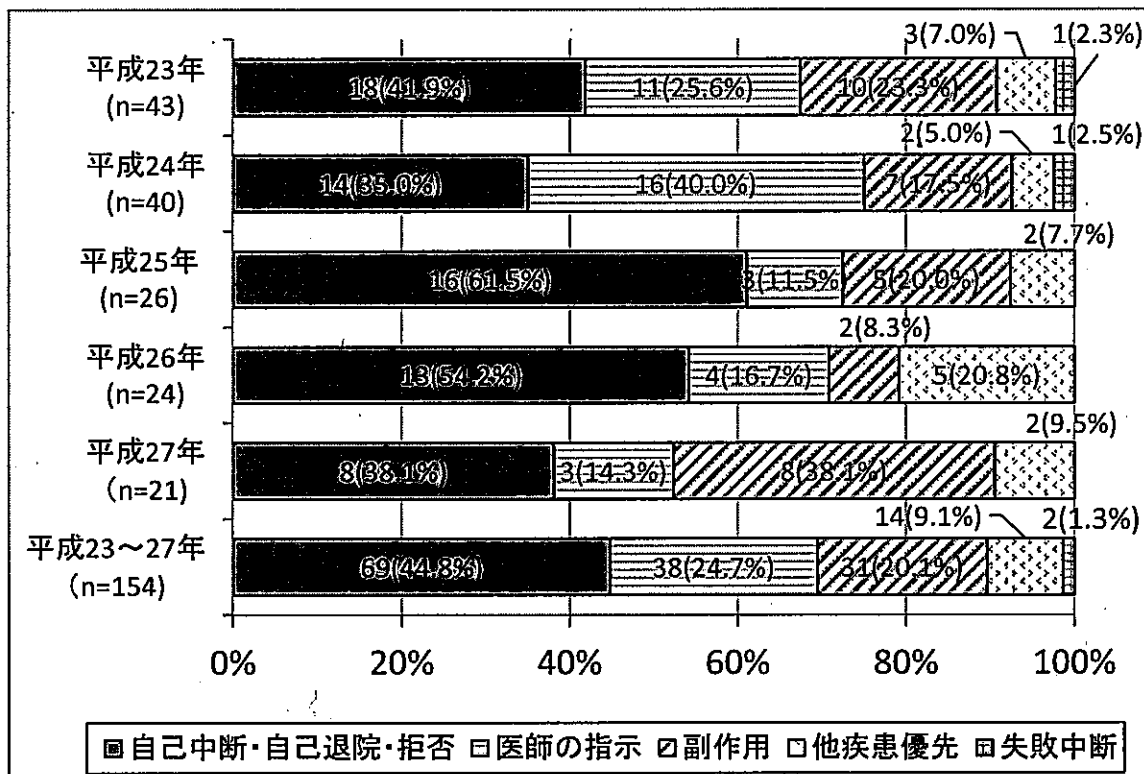
ア 喀痰塗抹陽性肺結核患者



治療失敗・脱落中断者数は平成 23 年から 27 年にかけて 17 人から 11 人となり、この 5 年間で 6 人の減少があった。

5 年間をまとめてみると、「自己中断・自己退院・拒否」が最も多く 34.4%、次いで「副作用」で 23.4%であった。

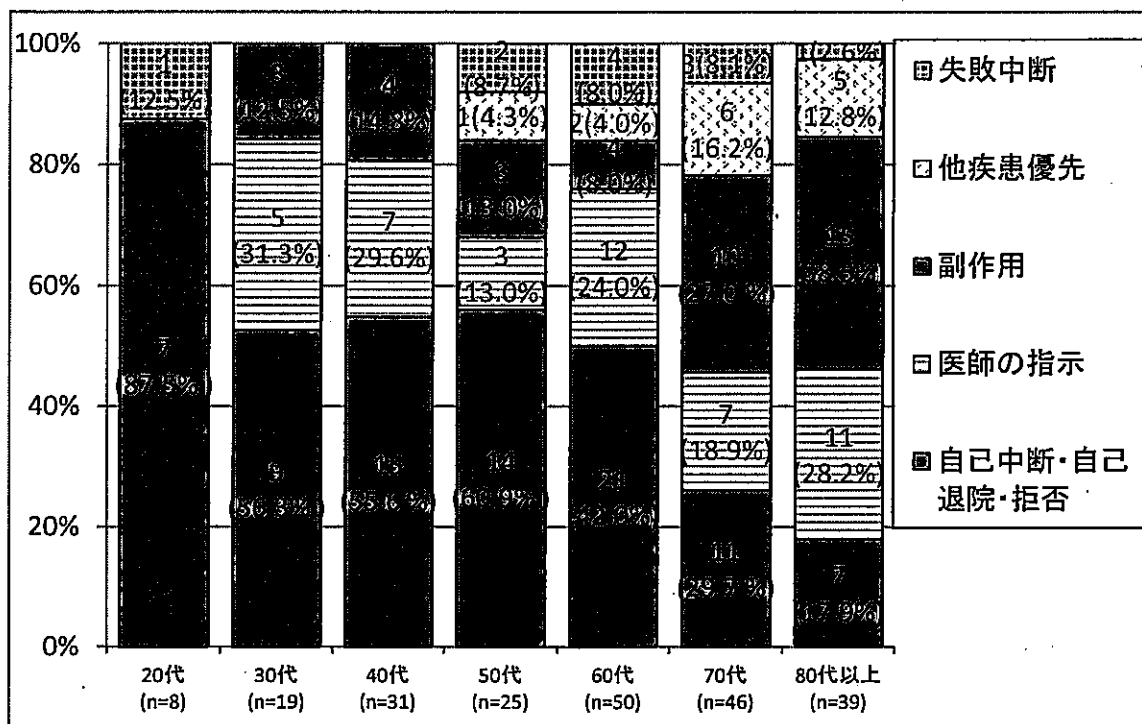
イ。喀痰塗抹陰性肺結核患者



平成 23 年から 27 年で治療失敗・脱落中断者数は 43 人から 21 人とこの 5 年間でほぼ半減していた。

5 年間まとめると、「自己中断・自己退院・拒否」が最も多く 44.8%、次いで「医師の指示」24.7%、「副作用」で 20.1%と続いていた。

○平成 23～27 年 年代別 治療失敗・脱落中断の内訳の状況



20 歳代から 60 歳代までについては「自己中断・自己退院・拒否」が、最も高い割合を占めていた。また、年齢が高くなるにつれ、「副作用」の割合が高くなり、70 歳代では、「副作用」が 27.0%、80 歳以上では 38.5%、を占めていた。

年代により中断理由等が異なることから、支援方法を検討するうえで年代も考慮し、1 人 1 人のリスクアセスメントを適正に行い、その患者さんに合わせた DOTS を導入し、治療成功へ導く必要がある。